

地域づくりと川づくりの2人3脚

鳥取県郡家土木事務所 美甘頼昭

1. はじめに

ここ数年の河川改修に対する考え方が大きく変わってきた様に思われます。それは従来の河川改修がややもすると河川の第一の機能つまり洪水の安全な流下にのみ重点を置いた改修でした。そのため、両岸がコンクリートで固められ人々は川から遠ざけられ川に生息する生き物もその生活環境を奪われてきた。

それらに対する反省からスタートしているように思われますが、現在、ふるさとの川、じげの川（地元の川）、多自然型川づくり等々、環境と生き物にも配慮した種々の施策が行われています。当管内に於いては11年程前からスポット的なものも含め可能な限り環境・景観に配慮しながら、親水機能を持たせた水辺空間の創出に力を入れてきました。又、川づくりと地域づくりとの関連等ソフト面についても「じげの川」広報推進事業の一環として「じげの川」探検隊及び「じげの川」を考える集い等を実施し、これらの広報活動にも積極的に取り組んできました。ここでは、これらについて紹介し、特に地域が息づく川づくりのシステム化についても「集い」の成果の1つとしてサロン方式による全住民参加の川づくりの実践例を報告することとし、川を基軸にした村づくり地域づくりを考えることとします。

2. 今までに手がけた川づくりの事例

1) 人にやさしく、生きものにやさしい川づくりの事例

- イ) 公園的要素をもった水辺空間の創出と高水敷整備による憩いの広場づくり
- ロ) 多自然型川づくりと魚がのぼりやすい川づくり

2) じげの川（地元の川）モデル事業と地域が息づく川づくり

- イ) じげの川「八河谷川（杉の木村公園）」の地域整備と一体となった川づくりの事例
- ロ) じげの川を考える集いの取り組と地域が息づく川づくりのシステム化



▲多自然型川づくり（八東川）



▲じげの川（八河谷・杉ノ木村）

3) 「サロン方式」による「全住民参加」の川づくりと地域づくり

<共通テーブルをどうつくるか>

一口に川づくりといっても治水を基本にした部分、潤いのある水辺空間、地域としての川を身近な生活の場にするために具体的にどんな川を創っていくかという部分、この2つがあると思います。

従って、川を創っていく場合、本来当然この2つの部分で行政側と地域住民側との間で話し合い交流が行われるのが自然です。しかし、今まで行政側が全部決めてやってきました。「ここにこんな川を創ります。用地はこれだけがかかります。協力願いたい。」式のやり方で、特に具体的な川づくり、地域住民の利用方法に合った川づくりという部分は今まであまりやられていなかった。

この部分は本来地域の人々や住民の方々が主役で、ここでは住民の意向を十分聞き取る。地域の方々の熱い思い、ロマンを十分出してもらう。そういう部分です。実は、そのところの共通テーブルをどう創っていくのが、大きな課題と思います。今、環境にも配慮した生き物にもやさしい川づくり、又川を潤いのある

身近な生活の場にしていくというようなことを考える場合、どうしてもこの部分での交流が不可欠の条件となると思います。そういう時代にはいつてきたと思います。

この部分に於いて、昨年6月から管内の8つの地域（1つの地域で6回程度）で同時にサロン方式による「全住民参加」の川づくりに取組み、現在までに58回のサロンを開き、参加した住民も600人を超える数となっています。以下にこのサロン方式を紹介することとします。

<肩書き抜きのサロン方式（一方式）>

（サロン運営上の5つの留意点）

- （1）出席者は、総て肩書きを外して出る。
- （2）前提なしの自由な発言の保証。
- （3）結論・まとめは、じっくり論議をする。
- （4）行政と住民側でキャッチボールを基本にしながらか整備計画をまとめあげる。
- （5）サロンは全住民参加を基本とする。



▲住民参加の川づくりの為にサロン方式で論議する

サロン方式は、河川の整備計画が持ち上がった段階からその地域の住民全員を対象にサロン（集会）を開く。そして、5つの点に留意しながら地域住民の思いを十分聞き取り整備計画に盛り込んで行く。

ある地域では、初回のサロンで「おむつの洗える川」「仏送りのできる川」等々生活に密着した、行政では思いつかない27項目にもものぼる要望が出されその多くが整備計画に盛り込まれた。この、サロン方式の特徴は、行政側も知恵と汗を出すのが住民の方々にも「汗」を流していただく、つまり用地のお世話は基本的に住民側でやっていただく。また、出来上がった水辺の親水公園的要素の中で主に日常的に地域の方々が利用する部分の日常管理（ソフト面）については住民が責任を持って行う。

この点については、多くのサロンで快く合意を見ている。

以上、交流の場づくりとしての、サロン方式は実践を通じて非常に威力を発揮している。まず第一にこのサロンを通じ地域の絆が強まりコミニティーの広場を通じ地域が息づく拠点となろうとしていること。

そして、第二に川を基軸にした村づくり町づくりへと論議が発展し、自ら汗を流す事を通じ「住民自治」の意識も高揚し文字通り地域づくりに大きく貢献していることである。

3. <まとめ>（今後の課題と問題点）

以上いくつかの事例を紹介しましたが、これらの事例をふまえ今後の河川改修のあり方は、又どこに視点の重点を置いて改修をやるのか、等々私見を述べ、提言させていただきます。

1) 人にやさしい川づくりの内容の1つとして、地域のコミニティーの場を創出するという側面も現時点で積極的に検討し河川区域外であっても、河川と一体としてそのオープンスペースとしての機能が十分発揮可能な土地については、積極的に用地取得をすべきである。

2) 治水と同時に親水機能は基より生き物にも十分配慮し、地域にマッチした計画を樹立する為に、計画段階から地域住民の意向を十分聞き取る等、住民参加の川づくりに努めるべきである。この場合、行政側と地域住民の交流の場として、サロンの共通テーブルを作るようなシステムを導入したらどうか。

3) 出来上がった施設等の管理が問題になって来るので基本的には管理に手間がかからない工法は当然検討されるべきであろうが、管理をいやがらない河川管理者への脱皮も必要ではなかろうか。

4) 川づくりの前段に人づくりという問題があると思われる。つまり我々行政側の人間は今迄この種の交流に不慣れであり今迄の対応にもいろいろ問題があったと思われる。これを機に住民が主役の川づくりに対応出来る人づくりが必要となる。